

令和 7 年 12 月第 2 回 サンホーム豊田 地域連携推進会議 議事録

日時：令和 7 年 12 月 11 日（木）

10：00～12：00

場所：多目的ホール

参加者：

N.M 様 （利用者）

K.M 様 （利用者）

戸嶋 静子 様 （利用者家族）

安藤 敏市 様 （美里地区民生委員）

成瀬 友昭 様 （小原寮長）

石川 輝 様 （豊田市障害福祉課）

田中 慎也 （施設長）

坪井 高士 （支援課長）

宮尾 優 （総務相談課係長）

高橋 摩朱 （相談員）

(1) 開会挨拶

田中施設長より本日の趣旨・内容について説明

(2) 出席者紹介

各自自己紹介

(3) 議題

<施設と地域との連携>

・事例発表と意見交換

高橋相談員より R7 サンホーム豊田 事例発表をスライドで発表。

感想：

安藤氏：皆さんの素晴らしい取り組みをされていると感じました。

戸嶋氏：長い間お世話になっているが、ここまでされているのを初めて知ったので他の親御さんにも共有していきたい。

成瀬氏：パワーポイント大変だったと思います。熱意が伝わってきました。取り組みが多くて面白かった。ビジョンが伝わってきて、ウチも負けていけないと感じた。

石川氏：多角的にされていて感銘を受けた。豊田市の事業にも参加していただいてありがとうございます。

田中施設長：器用貧乏にならないよう、ビジョンを持って取り組み続けたい。

成瀬氏：法人内発表は競い合ったりするのか？

田中施設長：7事業所中3位だった。1位は看取りへの取り組み。

坪井：畑の取り組みは前回の当会議でY利用者が「畑をやりたい」と話したところから始めた。また保護者会を通じて綿先生を招聘し、入所施設における地域連携の在り方について勉強会を受講した。

戸嶋氏：綿先生の勉強会は保護者の評判もすごく良かった。

<施設・サービスの透明性、質の確保について>

・利用者の意向アンケート調査(9月末利用者ミーティングより)

内容を要約して宮尾より説明。

田中施設長：外の活動が増えることで利用者の意向も地域に向いている印象。

戸嶋氏：外へ出たい希望は良いが、本人の実力が伴わないといけないのが難しいところ。

田中施設長：なのでウチがグループホームを作ったうえで、施設入所とどちらが相応しいか両面で補える体制が望ましい。

戸嶋氏：ぜひグループホームを作ってください。

・利用者の日常生活の様子について(ご利用者様との質疑応答)

宮尾：せっかく利用者本人にも来ていただいているので聞いてみますが、K.Mさんはサンホーム豊田の暮らしはどうですか？

K.M利用者：サンホームで暮らしたい。

N.M利用者：他の暮らしや仕事も体験してみたい。難しい仕事にも挑戦したい。

高橋：N.Mさんはシール等の難しい仕事も上手に行えている。

成瀬氏：K.Mさんはコーラ工場で何がしたいんですか？

K.M利用者：見た後にコーラを飲みたい。

安藤氏：ビール工場だとビールが飲めますね。

N.M利用者：お酒飲みたい。

宮尾：飲みたい意思が明確な方には提供を検討すべきですね。

田中施設長：ノンアルコールで試してみるのも良い。

<苦情解決委員会からの報告>

・虐待、事故、ヒヤリハットの報告(リスク管理部会からの報告)

宮尾より苦情解決委員会資料について説明し、質疑応答を求める。

坪井：電話対応の苦情についてはその後に電話対応のマニュアルを見直したうえで施設内研修を行った。

戸嶋氏：桃の寄付は生ものだが受けいれている？

田中施設長：栄養士に判断を集約したうえで判断させています。

成瀬氏：小原寮でも宿直者が対応している関係で、夜遅くでも電話が掛かってくる。内容として軽微に感じるものでも苦情として取り上げていて、素晴らしいと感じた。苦情かどうかの判断はどうされているのか。

田中施設長：迷った時は施設長で判断している。内容や相手の温度感等で総合的に判断している。

坪井：見守りカメラが付いたおかげで事故の状況について把握できるようになり、保護者への説明時に助かっている。以前は「おそらく他の方に押されて転倒したであろう」といった推測でしか説明できず、不信感を招く恐れがあった。その後の対策も立てやすくなった。

戸嶋氏：もちろん親の側でも「ああ、うちの子、それはやるよね。家でも一緒だから大丈夫だよ、ごめんなさいね」という思いもある。
うちの子も施設の階段で転倒したがカメラ映像を見せてもらって、わかりやすかった。

<利用者の権利擁護>

・虐待防止委員会からの報告

田中施設長：虐待の小さな芽を摘めるように取り組んでいる。

坪井：研修動画も活用しており、外部の事例を学んだり、グループホームの管理者を招いて研修会を開いたりといった取り組みをしている。

成瀬氏：小原寮でも利用者を「くん・ちゃん」で呼ぶ職員の改善に苦心した。学園時代からの付き合いのため、切り替えが難しい場合がある。

安藤氏：やはり、さん付けが基本だと思う。会社勤めの頃を思い起こしても、人柄の良い人は他者をさん付けで読んでいたし、ハラスメント傾向の人は呼び捨て、ちゃん付けだったりした。

部下や後輩にも、さん付けで平等に接している人はやはり慕われていた。

戸嶋氏：子供たちも職員に甘えちゃうので、ついついそうなりがち。

坪井：そういった不適切な親近感虐待の芽にもなりうる。

＜その他質疑応答＞

石川氏：全体を通して非常にしっかりやってもらっている印象を受けました。

成瀬氏：今回、内部の情報をいろいろ教えてもらえて有益だった。入所施設同士でしっかり情報交換できることが本当に役に立つと実感できた。

戸嶋氏：施設の取り組みを詳しく知れて良かった。グループホームの設立も是非頑張ってもらいたい。

安藤氏：普段から関わらせてもらっているが、田中施設長のもと施設の明るい雰囲気を感じられている。民生委員として今後もお手伝いできることがあれば協力していきたい。

(4) 閉会挨拶

田中施設長：本日、オープンな話を多くできて本当に良かった。今後ともよろしくお願いいたします。